

しらかば

第73号

平成28年
(2016年)

3月

公益財団法人 北海道札幌市東区北26条東14丁目1-15
北海道対がん協会 Tel (011)748-5511 Fax (011)748-5512

<http://www.hokkaido-taigan.jp/>



釧路がん検診センター 開設30周年を迎えて

公益財団法人北海道対がん協会

釧路がん検診センター所長 松浦 邦彦

本年6月で、公益財団法人北海道対がん協会釧路がん検診センターは開設30周年を迎えることができました。

まずは、これまで当センターを支えていただいた北海道、釧路市や帯広市などを始めとした道東近隣市町村の皆様に感謝を申し上げると共に、医師派遣などご協力を賜った北大医学部、札幌医大、旭川医大の関連教室の皆様、また市立釧路総合病院、釧路労災病院、釧路赤十字病院、帯広協会病院、国立病院機構帯広病院、帯広第一病院など関係する多くの皆様に心よりお礼を申し上げます。さらに、当協会札幌がん検診センター元所長の田村浩一先生、有末太郎先生、また当協会旭川がん検診センター元所長の大塚忍先生を始めとした多くの先輩には開設当初から数多くのご指導いただきました。

皆様、これまで本当にありがとうございました。

さて、釧路がん検診センターは釧路、十勝、根室管内のがん検診事業の拠点として昭和60年6月18日に開設されました。当時、我が国の死亡原因の第1位が「がん」になり、その予防対策として道内でも各市町村ががん検診を広く実施するようになりました。しかし、北海道対がん協会は札幌がん検診センター以外の拠点を持たなかったため、道内各地の検診会場へは札幌から検診車を派遣せざるを得ず、各市町村のがん検診実施のご要望に充分に対応出来る状況ではありませんでした。そこで、まず昭和56年に道央北部、道北地域を管轄地区として旭川がん検診センターを開設し、その後、道東地区を管轄として釧路市に当センターを開設致しました。実際には釧路市と帯広市が開設候補地になりましたが、そのおよそ3年前から当時の鰯淵釧路市長を中心に誘致運動が始まり、さらに篤志家からの土地の寄贈があって現在地になったと聞いております。

開設時の職員は総勢33名。田村浩一先生が所長として札幌がん検診センターと兼任し、ほぼ毎週来釧され

て当センターでは火曜日に外来に出られました。また副所長には札幌医大第4内科出身の大塚忍先生、事務長は釧路保健所から谷藤さんをお迎えして、総務課、検診課、保健指導課、放射線科、検査科の各課長は札幌センターから若手の実力者を集めて船出を致しました。

その後、平成元年には大塚副所長が旭川がん検診センターに転勤され、暫くの間は札幌医大第4内科から出張医をいただいておりますが、平成5年1月から松浦が副所長として赴任し、平成7年には田村先生に代わって釧路がん検診センター所長に就任しております。また帯広市のご協力の下、平成9年には釧路がん検診センター帯広出張所を開設いたしました。

この30年、がん検診を巡る状況は大きく変化しております。がん検診が老人保健法の補助事業から外れたこと。介護保険が導入されて、市町村担当者の業務が増加したこと。特定健診が導入されたこと。道内に他の検診事業者が増えたことなどです。実際、当センターにがん検診を委託する市町村は開設当時に比較すると減少しておりますし、がん検診の受診数も漸減傾向です。しかし、がん死亡の減少を目指す予防対策としてのがん検診の意義には疑いの余地もありませんので、今後も皆様のご指導、ご鞭撻、ご協力を賜りながら、当センターでは確実に精度の高いがん検診を行ってまいりたいと思います。

最後になりますが、日頃から一緒に検診現場で汗を流している職員を始め、今までの当センターで働いてくれた全ての職員達にこれまでのお礼を申し上げますと同時に、今後の努力、活躍を期待して、釧路がん検診センター開設30周年のご挨拶といたします。

この30年、ご支援を賜り誠にありがとうございました。

今後とも宜しく願い申し上げます。

第47回 がん予防道民大会 江別市で開催

平成27年10月9日（金）、江別市民会館において、北海道・江別市・公益財団法人北海道健康づくり財団・公益財団法人北海道対がん協会の主催のもと、第47回がん予防道民大会が開催されました。

がんによる死亡者は年々増加の一途をたどっています。北海道においても、がんは死亡原因の第1位であり、喫煙や食生活、運動などの生活習慣に大きな影響を受ける肺がん・大腸がんなどの死亡者数の割合が、全国と比較して高いのが特徴です。

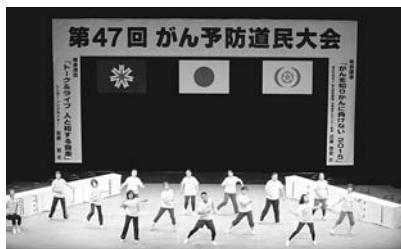
この大会は、道民に対してがんに関する正しい知識の普及を図ることを目的として行っています。近年、胃がんや子宮頸がんは感染症であることが解明され、適切な治療によりがんにかかるリスクを下げられることがわかってきたことから、若いうちからがん予防の正しい知識とがん検診の重要性を伝えることをテーマとしています。そのため、毎年主催地近隣の高校へ参加を呼び掛けており、今年は江別高校から320名の生徒の参加が得られ、一般市民と合わせ920名が参加しました。

当日、会場ロビーでは北海道健康をまもる地域団体連合会により、乳がん啓発のピンクリボン運動が行われました。のぼりを立て、検診受診を勧めるポケットティッシュを来場者に配布しました。同じく、ロビーでは平成27年2月に設立された「北海道がん対策基金」のブースが設けられ、来場者から多くの募金・商品募金（KIRIN製自販機での飲料購入）にご協力いただきました。



このほか、江別市、北海道対がん協会、協賛企業である北海道コカ・コーラボトリング株により啓発ブースを出展しました。

開会前には、江別市の保健センター保健師が市民の健康維持に役立てるために創作したご当地エクササイズ「E-リズム」を披露しました。江別市のご当地キャラクター「えべちゅん」のTシャツを身にまとい披露した「E-リズム」は、音楽に合わせて楽しく行えるエクササイズでした。



大会では、はじめにがん予防功労者表彰が行われました。この表彰は「がんに関する正しい知識の普及啓発に功績のあった団体」及び「がん検診の推進に功績のあった団体」に贈るものです。平成27年度は、帯広市、名寄市、深川市、苫前町、安平町、江別市食生活改善協議会の6団体が表彰されました。

続いて、特別講演と健康講話が行われました。

特別講演の講師には、独立行政法人国立病院機構北海道がんセンター院長の近藤啓史先生をお招きし、「がんを知り、がんに負けない2015」と題してご講演いただきました。近藤先生は、院長の重職を努めるとともに、胸腔鏡手術の第一人者として北海道がんセンターで診療を続ける傍ら、各地に招かれ出張手術にも積極的に対応しています。

講演では、日本や北海道のがんの現状から、がんとは何か、がんの原因について、予防するためにはどうするべきかについて話されました。



（以下講演の要旨）

現在の日本の現状

国立がん研究センターによると、2015年のがん予想罹患数は98万人となります。これは前年と比較すると12万人の増加となり、ちょうど江別市民の数と同じだけ増えることとなります。また、男女合わせると大腸、肺、胃、前立腺、乳の順に罹患数が多いと予想されています。がんの予想死亡数は37万人で、前年比で4千人増えることとなります。肺、大腸、胃、すい臓、肝臓の順に多いと予想されています。

がんは遺伝子の病気・がんの原因

「がん」とは、周囲臓器に浸潤をきたす、あるいは多臓器へ転移し、無秩序に増殖する細胞（の塊）と表現できます。がん細胞は遺伝子の異常が重なってできます。がん遺伝子やがん抑制遺伝子などの異常で段階的に悪性化し、がん細胞になります。がんは遺伝子の病気です。よく「親のがんがうつった」と言いますが、そんなことはありません。がんになりやすい遺伝子が遺伝し、生活習慣が同じということから同じがんになることはあります。

がんの原因・影響を与えるものは喫煙、感染、飲酒、運動不足、野菜不足などです。がんの予防ははっきり言ってまず禁煙。それから感染予防・治療、禁酒、野菜摂取などが必要です。こう言ってしまうと生真面目な生活になってしまい、人間としての喜びがないのではないかと思います。その辺りは上手にやっていただくしかないと思います。

北海道の状況

北海道民の死因のうち、3分の

1 はがんによるものです。北海道の年齢調整死亡率の高さは、都道府県別でいうと全国2位。ワースト2位ということになります。また、がんの死因の男女5位までは全国とほぼ同じになっています。全国と同じく北海道は、男女とも2010年から13年の間に喫煙率が上昇しています。これまで長い間、喫煙率は下がっていたのですが、2013年は男女ともに増えていました。せっかく禁煙対策をやっているのに、うまくいっていない現状がわかります。分煙などをしていますが、喫煙自体を止めないといけないと思います。

がんには負けないためには

がんは10～20年程経つと計1cmに成長します。その後も増大し、転移などを起こします。1cmで発見するためにはPET検査、内視鏡検査、CT検査、エコー検査などが有効です。はやくに見つけて適切な治療を行えば治る可能性がぐっと高くなります。

検診を行うと、早いステージで発見される可能性が高くなり、治癒率が高くなります。しかし、5大がんを含め全国の検診受診率は

低く、しかも北海道はさらに低い状態です。

最後に

我が国の将来についてですが、早期発見や治療法の進歩によりがん患者の生存率は向上し、がん経験者は年に60万人ずつ増えると予想されます。がんが治って社会復帰できる人、できない人を含め毎年増えていきます。そのため、がんで治療した人とともに共存していく社会をつくっていく必要があると思います。

がんにならない人も、がんで死なないためには、がん予防として早期発見・適切治療が必須です。

また、私は、現在何を目的に生きているのかをしっかりと考えることが大切だと考えています。皆さんが、がんになったときに慌てず、がんは治るものだとし、家族とどのように生活していくかをよく考え、生きていくことを望んでいます。

続いて行われた健康講話では、江別市在住のシンガーソングライター 桜庭 和氏による「トーク&ライブ 人と和する音楽」が行われました。

桜庭氏は、平成15年NHKのど自慢江別市大会でチャンピオンとなり、平成17年にデビュー。それ以来TV-CM等に多くの楽曲提供をしており、平成27年9月には生まれ故郷の「美深町初代観光大使」に就任されました。



桜庭氏は、CMに起用されている耳なじみのある曲を交えながら、平成23年に乳がん検診啓発短編映画「1枚のコイン」挿入歌を手掛けたことや、ピンクリボン運動に積極的に取り組んでいることを話されました。笑いのあるトークを交えたライブで終始会場は盛り上がっていました。

講演後、次期開催地である名寄市の加藤市長が挨拶され、第47回がん予防道民大会は盛会裏に終了しました。

故 筒井 さかえ様より 尊いご寄附をいただきました

平成28年2月、苫小牧市在住の筒井 宥様より、当協会へ尊いご寄附を賜りました。きっかけは、御息女・さかえ様を胃がんで亡くされたことでした。50歳という若さでした。このご寄附はさかえ様の遺産の中から、「がん征圧に役立ててほしい」との思いで託されたものです。宥様に代わり、さかえ様の闘病のご様子について、簡単ですがご紹介させていただきます。

さかえ様は、苫小牧市内の企業でご活躍されていました。平成24年、会社の検診で胃に腫瘍があることがわかり、精密検査で胃がんと診断されました。47歳という若さです。すぐに手術を受け、再発予防のために化学療法等の治療も受けられました。抗がん剤の副作用で脱毛しても、ウィッグをつけて、気丈にも勤務を続けられていたそうです。

しかし、長くつらい治療のかいもなく、平成27年6月に胃がんが再発しました。すでに手の施しようがなく、余命3カ月との診断でした。このときはご本人もお父様も診断を受け入れられず、札幌市内の医療機関でセカンドオピニオンを受けましたが、内容は変わりませんでした。その後、様々な治療を試みましたが、平成27年9月、治療のかいなく逝去されました。亡くなる前日まで在宅で過ごされ、がんの痛みと闘い、弱音を吐く事はありませんでした。お葬式では、会社の方から「明るく誰とでも打ち解けられ、周囲の信頼もあつかった。」と、早すぎる死を悼む言葉をたくさんかけられたそうです。遺影の笑顔はあまりにもお若く、道半ばのご無念を思うと、やりきれない思いになります。このようなつらい思いをする人が、一人でも減ってほしいと心から願います。

がんの治療は「オンリー・ワン・チャンス」といわれています。がんを発見したときに、あらゆる手をつくしてがん細胞を除去しないと、いずれ再発をしてしまいます。再発したがん細胞は、初期治療で用いた方法が効かないことが多く、手の施しようがないという事態が生じかねません。そのため、初めて見つけた時に完全にがん細胞を取り除くこと、そのためには、がんの広がりができる限り小さい段階で発見することが鍵となってきます。さかえ様のように若い年齢で発病したがんは、高齢になってから発病したがんよりも、悪性度が高く、進行が早い傾向があります。胃がん検診は40歳から受けられます。忙しい毎日ですが、定期的にがん検診を受け、早期発見に努めましょう。周囲の大切な人にもぜひ呼びかけてください。



❖ 北海道がん対策基金 実施状況 ❖

❖ 北海道がん対策基金とは？

「がんになっても安心して暮らせる社会づくり」を目標に、全ての道民が一体となってがんの克服とともにがん患者やその家族の方々を社会全体で支える仕組みとして、平成27年2月、北海道が中心となり、道内企業をはじめ各種団体や道民の皆様などからの募金や寄附を財源とした基金を設立いたしました。

今後、本基金をもとに、皆様とともに「がんに負けない社会」の実現を目指して様々な取組みを進めてまいりますので、継続的なご支援・ご協力をお願い申し上げます。

募金状況

2月29日現在の累計募金状況は
11,102,925円
引き続き、皆様のご協力をお願いいたします。



募金額の内訳

基金自動販売機		
設置先（敬称略）	台数	合計金額
独立行政法人国立病院機構 北海道がんセンター	1	135,051
山崎製パン(株) 札幌工場	1	121,907
㈱モロオ	18	82,026
一般社団法人 北海道医師会	1	22,096
日本データサービス(株)	1	19,597
北榆会 札幌北榆病院	5	16,951
北海道医療大学	1	8,886
竹山札幌業務センター	1	5,043
日鋼記念病院	1	5,004
徳洲会札幌病院	1	3,515
㈱北谷組	2	3,143
設置先非公開	1	2,253
㈱ほくやく竹山ホールディングス	1	2,059
マルベリー	2	1,323
ノルデン薬局北栄店	1	1,215
室蘭保健センター	1	1,071
次世代ゴルフフィットネス AQUA札幌	1	930
㈱ムトウ	1	656
(有)タック・コーポレーション	1	250
パルス薬局東室蘭店	1	205
一般社団法人 北海道歯科医師会	1	近日入金予定
太平洋セメント(株)	1	近日入金予定
公益財団法人 北海道対がん協会	2	10,046

一般寄附・募金箱		
企業・団体等	件数	金額
個人	36件	4,009,817
常設募金箱	21か所	11,797
臨時募金箱	8日間	47,914

募金の方法

- 口座への振り込みによる募金
- 募金箱への募金
- 協賛商品の購入による募金
- 直接寄附・募金
- クレジットカードでの募金（ホームページより可能）

助成事業の募集を行いました

北海道内に拠点を置き、活動を展開している団体を対象に、1件あたり50万円を上限に事業費を助成します。

寄せられた募金や寄附を基に、がん検診受診促進・がん教育・がん患者等相談支援・がん情報提供等のがん対策を推進する事業を平成28年2月1日～29日に募集し、13団体、17事業の応募がありました。

周知用ステッカーを作成

北海道がん対策基金の周知にあたり、周知用のステッカーを作成しました。北海道薬剤師会の協力のもと、道内の薬局へ配布し、店舗内の貼付をお願いしました。



ステッカーは
A5サイズ
(148×210mm)

当協会札幌がん検診センターでも掲示しています。検診受診の際には、ぜひお探してください。

北海道がん対策基金では、周知用ステッカーの掲示にご協力くださる企業・団体を募集しております。

お問い合わせ

北海道がん対策基金の周知用ステッカーについて、募金箱設置について、その他お問い合わせは事務局までお問い合わせください。

＜事務局＞

○公益財団法人 北海道対がん協会

TEL (011) 748-5511

○北海道保健福祉部健康安全局地域保健課

がん対策・健康づくりグループ

TEL (011) 204-5117

募金箱設置先募集！

基金にとって、募金箱への募金は大きな力となっています。企業からの寄附や大口寄附だけでなく、道民全体で支える社会を目指しています。北海道のがんの現状・問題を身近に感じ、多くの人が「私達が、がんを負けない北海道をつくるんだ！」と実感できよう、また皆様のより多くの支援を受けられるよう、募金箱の設置にご協力いただける事業所・店舗・病院などを募集しています。

現在の設置先は、以下のとおりです。(敬称略)

がん診療連携拠点病院	独立行政法人国立病院機構 北海道がんセンター	白石区
	医療法人湊仁会 手稲湊仁会病院	手稲区
	JA北海道厚生連 札幌厚生病院	中央区
	砂川市立病院	砂川市
	社会医療法人母恋 日鋼記念病院	室蘭市
	市立旭川病院	旭川市
	北見赤十字病院	北見市
がん診療連携指定病院	函館中央病院	函館市
	札幌北楡病院	白石区
	札幌共立五輪橋病院	南区
	国立病院機構 北海道医療センター	西区
	深川市立病院	深川市
	市立室蘭総合病院	室蘭市
	製鉄記念室蘭病院	室蘭市
	伊達赤十字病院	伊達市
	苫小牧市立病院	苫小牧市
	旭川赤十字病院	旭川市
その他	国立病院機構 旭川医療センター	旭川市
	ふよう調剤薬局	苫小牧市
	札幌がん検診センター	札幌市
	旭川がん検診センター	旭川市
	釧路がん検診センター	釧路市



募金箱は、幅12cm、奥行き9.7cm、高さ17.9cmの亚克力製です。募金箱の背面には、パンフレットを挿入することができます。募金箱のサイズ・材質等の変更となる場合がございます。

また、イベント等の臨時的な募金箱設置先も募集しております。お問い合わせは事務局までお願いいたします。

東京海上日動火災保険株式会社 北海道ブロックの有志一同様より ご寄附をいただきました

平成28年2月、東京海上日動火災保険株式会社北海道ブロック東京海上グループ社員有志一同様、代理店・従業員有志一同様より、300,000円ものご寄附をいただきました。東京海上日動火災保険株式会社様では、グループ会社・代理店を含めた募金活動は初めてとのことで、このような新たな取り組みを行っていただいたこと、またご協力をいただいた皆さまに心より感謝を申し上げます。



マッチングギフト制度を ご存知ですか？

マッチングギフトとは、企業・団体が社会貢献を目的とし、寄附を募る際に、寄せられた金額に対し企業が一定比率額を上乗せし、寄附額を増やす制度のことです。この度の東京海上日動グループ様・代理店様のご寄附もこの制度を利用しています。

お勤め先の企業・団体でこの制度が有り、その対象となる場合は、ご寄附額を大きくすることが可能です。個人の方が寄附をされる際に、ぜひご検討ください。



ホームページをリニューアル

クレジットカードによる募金が可能に！

北海道がん対策基金のホームページがリニューアルしました。(アドレス：<http://hokkaido-taigan.jp/donate/>)

ホームページでは、基金の支援方法や、協力している企業・団体などがご覧いただけます。また、募金方法として、クレジットカードによる募金が可能になりました。クレジットカードで1回のみ寄附、または毎月自動決済での寄附がご利用できます。毎月自動決済では、毎月1日に指定金額がクレジットカード決済される便利なサービスです。

みなさまの尊いご寄附をお願いいたします。



田中賢介ピンクリボンプロジェクト 『MUSEE & KENSUKE大切な人を守ろう!』



北海道日本ハムファイターズの田中賢介選手による社会貢献活動、「ピンクリボンプロジェクト『MUSEE & KENSUKE大切な人を守ろう!』」により、田中選手及びスポンサー企業様から北海道対がん協会へ、百万円を超える多額のご寄附をいただきました。そのご厚情に感謝の意を示すため、下記のとおり感謝状の贈呈を行いました。

開催日時：平成28年3月5日（土）12：00

開催場所：札幌ドーム（北海道札幌市豊平区羊ヶ丘1）

内 容：北海道対がん協会会長 長瀬 清より
田中選手へ感謝状の贈呈



【プロジェクト概要】

田中賢介選手がピンクカラーの野球用具を身に着けていたことから、「ピンク」がご本人のイメージカラーとして定着したことをきっかけに、乳がんの早期発見、早期治療の大切さを伝えるピンクリボン活動に取り組まれるようになり、このプロジェクトが2008年からスタートしました。

今シーズンは、プロジェクトの理念や活動内容にご協賛いただいた「株式会社シンコーポレーションMUSSE GROUP」様をスポンサーとして、田中選手及びスポンサー様から、1アウトをとるごとに2名分の乳がん検診の料金としてご寄附いただく枠組みになっており、通算342アウト、684名分の検診料をいただきました。

賢介選手から当協会への寄附は、これまでで約500万円にのぼります。頂戴した尊い寄附金は、がんに関する正しい知識の普及啓発媒体の作成やがん検診事業の推進に役立てられます。

平成27年度がん予防学級を開催しました！

北海道対がん協会では、昭和46年より、がんに関する正しい知識の普及を目的として、開催地の市町村と共催でがん予防学級を開催しています。平成27年度は札幌・旭川・帯広で延149名の参加を得ました。来年度も開催予定ですので、ふるってご参加ください！

札幌	平成27年11月11日（水） 札幌がん検診センター 4階会議室 30名参加	第1講 「がんを知るーがん征圧を目指して」 講師：北海道対がん協会会長 長瀬 清 第2講 「がんを経験して」 講師：がんサポーター北海道 がんの語り手 菊地 ゆう子 氏 第3講 「がん予防に役立つ食事について」 講師：北海道がんセンター栄養管理室長 長澤 真由美 氏 第4講 「健康運動」 講師：北海道対がん協会臨床検査部集検係長 市川 浩巳
旭川※	平成27年9月8日（火） サン・アザレア 3階ホール 88名参加	第1講 「がんを知るーがん征圧を目指して」 講師：北海道対がん協会会長 長瀬 清 第2講 「がんになって思うこと」 講師：がんサポーター北海道 がんの語り手 内山 浩美 氏
帯広	平成27年11月27日（金） 帯広市保健福祉センター 3階 視聴覚室 31名参加	第1講 「子宮がんについて」 講師：北海道対がん協会細胞診センター所長 藤田 博正 第2講 「乳がんについて」 講師：帯広協会病院院長 阿部 厚憲氏 第3講 「健康について」 講師：帯広市健康推進課保健師 中村 裕子氏 第4講 「内科のがん」 講師：北海道対がん協会釧路がん検診センター所長 松浦 邦彦



※旭川がん予防学級については、このほかに「旭川市がん予防教室」を開催しているため、市と共催とはしていません。



2015年度ピンクリボン活動支援自動販売機寄附金贈呈式を開催しました

【2015年度ピンクリボン活動支援自動販売機寄附金贈呈式】

開催日時：平成28年3月2日（水）11：30～12：00

開催場所：大通ビッセ 1階 エントランススペース
（北海道札幌市中央区大通西3丁目）

内 容：北海道対がん協会からピンクリボン支援自動販売機
設置者様へ感謝状の贈呈
北海道コカ・コーラボトリング株式会社から
北海道対がん協会へ寄附金の贈呈
終了後、大通りビッセ地下1階スペースで
啓発グッズ（オリジナルふせん）を配布しました。



ふせん表紙



ふせん



ピンクリボン活動支援自動販売機
（デザインは一例です）



（左）北海道対がん協会 長瀬会長
（右）北海道コカ・コーラボトリング株式会社 佐々木社長



自販機設置先を代表して
広域紋別病院事務部参事 河谷 篤様より
ご挨拶を賜りました。



自販機設置先様（11社）と
長瀬会長（中央左）、佐々木社長（中央右）



コカ・コーラボトリングの
キャラクター「Qoo」と一緒に
街頭啓発を実施しました。

当協会では2010年5月に北海道コカ・コーラボトリング株式会社と締結した「ピンクリボン運動の推進に関する協定」に基づき、「ピンクリボン活動支援自動販売機」を道内各地で展開しております。

ピンクリボン活動支援自動販売機は、飲料を購入するごとに売上金の一部が協会へ寄附される仕組みになっており、北海道において乳がんから女性を守るための活動にあてられます。これは、北海道内から寄せられた寄附金を、北海道内に限定して使用する「北海道還元モデル」といえ、道内初の試みです。

自販機の数、初年度は21台ほどでしたが、現在は約150台に増え、それに伴って寄附金の額も年々増加しており、2015年度は1,978,959円もの寄附が集まりました。

2016年3月2日に開催した「2015

年度ピンクリボン活動支援自動販売機寄附金贈呈式」では、自動販売機設置先の企業・団体様にお集まりいただき、当協会の長瀬会長から、日頃のご協力に感謝の意を表して感謝状を贈呈しました。また、北海道コカ・コーラボトリング株式会社の佐々木社長から長瀬会長へ2015年度のご寄附の目録が贈呈されました。佐々木社長は、「北海道コカ・コーラボトリング株式会社では100を超えるCSR活動を行っていますが、このピンクリボン活動支援自動販売機には特に力を入れており、今後もこの活動の輪が道内全体に広がっていくことを期待します。」と話されました。

頂戴した尊い寄附金は、がんに関する正しい知識の普及啓発媒体の作成やがん検診事業の推進に役立てられます。今年度は、寄附金の一部

が「乳がん触知モデル（実際にがんのしこりを触って体験できる模型）」の購入や、広く一般に乳がん検診の大切さを呼びかける啓発媒体として、ふせんメモを作成にあてられました。このふせんメモは、贈呈式終了後、大通りビッセ地下1階で500個ほど無償配布いたしました。ふせんメモの内側には「増えてます 北海道の乳がん。」というメッセージとともに、北海道内の乳がん検診受診率が全国平均よりも低く、乳がんによる死亡が全国ワースト5位（2014年度）であることなどが書かれており、受け取った方への啓発につながることを期待しています。今後も北海道コカ・コーラボトリング株式会社と協働でピンクリボン活動を推進してまいりますので、ぜひご注目ください。

健康教育を 行っています



講演：「あなたに役立つがんのお話」
講師：北海道対がん協会会長 長瀬 清
平成27年5月13日（水）
新川地区会館

講演：「そうだったのか！知って納得。がん検診」
講師：北海道対がん協会広報係長 植村 絵美
平成27年9月25日（金）
北海道食生活改善推進員協議会
平成27年度食生活改善全道研修会



講演：「あなたに役立つがんのお話」
講師：北海道対がん協会会長 長瀬 清
平成27年9月25日（金）
拓北・あいの里地区センター

講演：「がん征圧を目指して
～胃がん死をなくすために～」
講師：北海道対がん協会会長 長瀬 清
平成27年9月26日（土）
渡島医師会・七飯町・エーザイ(株)・北海道医師会・
北海道対がん協会
七飯町がん予防町民フォーラム

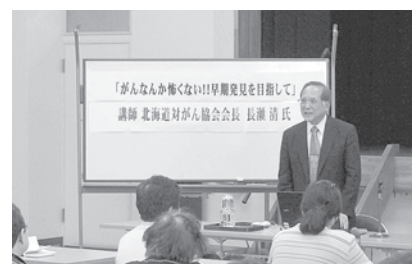
講演：「そうだったのか！知って納得。がん検診」
講師：北海道対がん協会広報係長 植村 絵美
平成27年10月1日（木）・23日（金）
北海道市町村職員共済組合
平成27年度レディース健康セミナー

講演：「知っておきたいガン大国日本
～未来のために今できること～」
講師：北海道対がん協会経営企画課長補佐 熊林 弘美
平成27年11月6日（金）
第28回中央区PTA連合会研修大会

講演：「あなたに役立つがんのお話」
講師：北海道対がん協会会長 長瀬 清
平成27年11月12日（木）
幌北まちづくりセンター



講演：「乳がんのセルフチェック」
講師：北海道対がん協会広報係長 植村 絵美
平成28年2月11日（水・祝）
イオン苫小牧店セントラルコート



講演：「がんなんか怖くない!!早期発見を目指して」
講師：北海道対がん協会会長 長瀬 清
平成28年2月26日（金）
日高町保健推進員協議会交流会



北海道対がん協会では、市町村や市民団体、企業等が実施する講演会に無償で講師を派遣しております。（ただし、交通費のみ実費をご負担いただきます。）
がんに関する講師派遣のご依頼は、
（公財）北海道対がん協会経営管理部経営企画課
広報係までお問い合わせください（TEL011-748-5511）